



www.nakamichi-leasing.co.jp

中道リース株式会社

(証券コード 8594)



代表取締役会長 関 寛

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社の第50期(2021年1月1日~12月31日)の事業の概況と決算のご報告を申し上げます。

一スでは前年実績を大きく上回り、「2019年度~2022年度中期経営計画」の目標額を達成いたしました。

管理部門におきましては、資金調達面では、安定的かつ良質な資金を調達するためシンジケートローンを組成、また2016年以來の外国債発行による資金調達を実施いたしました。

信用コストは、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による損失の拡大に備え、適切に貸倒引当金を計上いたしました。

その結果、当事業年度の業績は総受注高46,017百万円(前事業年度比112.1%)、売上高は前期実行した債権の証券化により資産の一部を譲渡したためリース売上高及び割賦売上高が減少し39,293百万円(同97.5%)、新型コロナウイルス感染症の影響による貸倒引当金繰入額は減少しましたが、売上高が減少したこと等により、営業利益は669百万円(同97.3%)、匿名組合投資利益が増加したため経常利益は762百万円(同103.0%)、当期純利益は492百万円(同103.1%)となりました。

■ 営業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの変異株による感染再拡大の影響により厳しい状況で推移しましたが、ワクチン接種の進捗等により東京オリンピック・パラリンピック開催後は新型コロナウイルスの感染状況は急速に沈静化し、経済活動を段階的に引き上げていく動きとなりました。しかしながら更なる変異株による感染再拡大懸念から依然として先行きは不透明な状況となっております。

このような状況のなか当社は、営業部門におきましては、例年期初に実施する人事異動・組織変更を凍結し、コロナ禍においても営業資産の増強、営業目標の完全達成を目指しスタートしました。また、東北地方で唯一拠点の無かった秋田県への営業展開強化のため、4月1日付で秋田支店を開設いたしました。スペースシステム事業部は保有資産の効率的運用と新規開拓を、ヘルスケアサポート事業部は営業品目の拡大を図ってまいりました。子会社メッドネクスト株式会社においては新規顧客開拓と業務拡大を図りましたが、実現には到りませんでした。

営業業績面では、種類別受注高はリース契約及びスペースシステムが前年を大きく上回りました。リース契約はバス以外の輸送用機械や建設関連機械が堅調に推移したこと、スペースシステムは初めて高齢者用の介護施設を取得したこと等によるもので、総受注高

■ 今後の見通しと対処すべき課題

翌事業年度の見通しといたしましては、新たな変異株による感染の急拡大により、すでに大半の都道府県においてまん延防止等重点措置が適用されており、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が継続することが見込まれます。世界経済においても、欧米を中心に新たな変異株が拡がりを見せており、各国で感染抑制と経済活動継続を両立するための試行錯誤が続くと思われます。また世界的な半導体の供給不足の問題もあり、先行きが不透明な経営環境が続くと推測されます。

業績面では新型コロナウイルス感染症の影響が拡大した場合には信用コストの増加、更に金利情勢の変化による資金コストの上昇、また半導体の供給不足による輸送用機械等の納期遅れの影響が懸念されます。

このような状況下で当社は、組織体制を一部変更し、コロナ禍においても営業資産の増強、営業目標の完全達成を目指します。

営業部門におきましては、札幌圏での営業展開強化を図るため、旧来の札幌支店を2課制とし、札幌統括

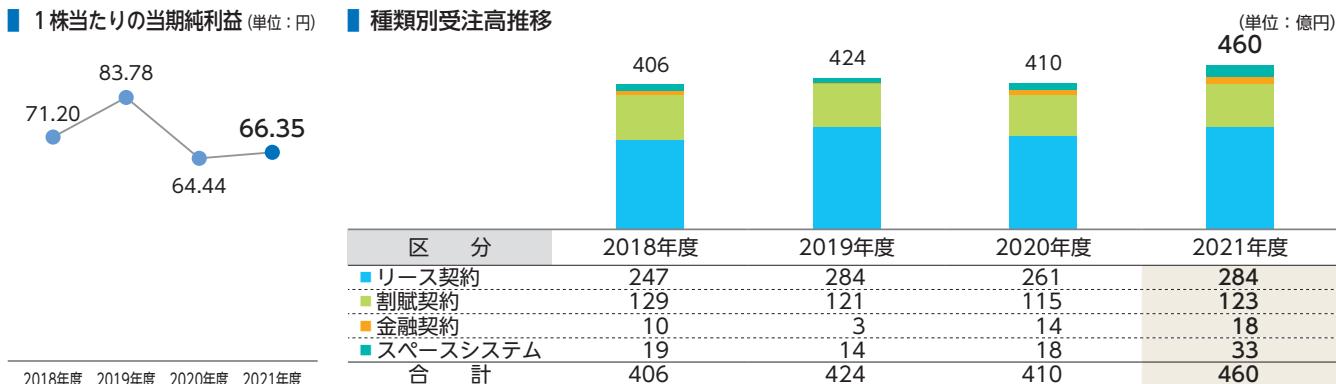
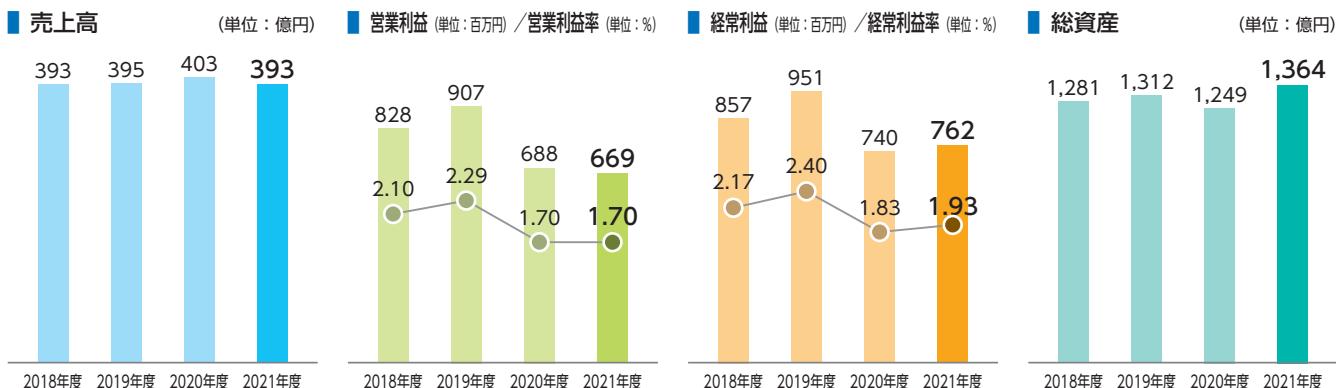
支店を新設いたします。また新商品新分野について、継続して開発研究を進めてまいります。スペースシステム事業部は引き続き保有資産の効率的運用と新規開発を図ってまいります。ヘルスケアサポート事業部は営業品目の拡大を目指し、子会社メッドネクスト株式会社においては新規顧客開拓と業務拡大を目指します。

管理部門におきましては、業務の効率化を一層図るとともに部門間の連携を推し進め、営業部門へのサポートを強化します。資金調達面では、引き続き新規取引、既取引の深耕を図るとともに、債権の流動化や社債発行などによる安定的で効率的な調達を追求してまいります。

当社は創業よりの当社の重点方針である「健全経営・堅実経営」をあらためて認識するとともに、「社員の成長なくして会社の発展なし」の精神を継承し、創業50周年を迎える2022年度の目標達成に向け尽力してまいります。また2023年度からスタートする新中期経営計画を策定いたします。併せて、昨年より取組みを開始した国際的な共通目標であるSDGs(持続可能な開発目標)計画の策定にも着手いたします。

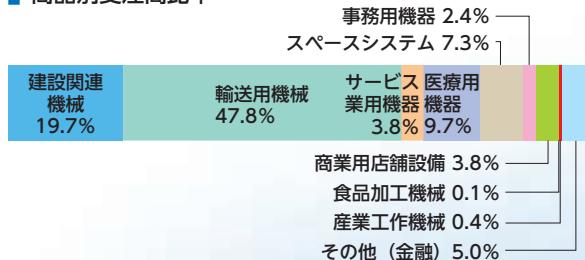
株主の皆様には今後とも更なるご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年3月

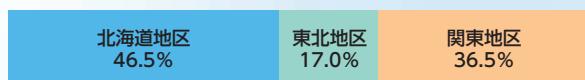


総受注高 **460**億円(前期比 12.1%増)

商品別受注高比率



地域別受注高比率



北海道営業部



31.2%

北海道営業部は札幌、旭川、函館、帯広、苫小牧、釧路の6支店体制にて、地域密着営業を積極的に展開しております。当期は期初よりコロナ禍の影響が危惧されましたが、結果として目標比に対し受注高は111.3%、収益は122.9%と堅調な推移で終える事ができました。競合の激しい大型案件を無理に追わず、小型中型案件を「積極的且つ迅速に対応」した事と、お取引先様に対する営業現場からの提案営業等、創意工夫を重ねた行動に注力致しました。一方で不良債権発生が最小限に抑えられた事も大きな成果となりました。

次期につきましては、引き続き「各地の再開発」、「北海道新幹線延伸」、「農業土木」、「風力発電」等の大型プロジェクトに関連する工事が活発化している事から、お取引先様の設備投資のお役に立つべく営業に邁進していきます。また、林業分野等への営業も強化していきます。

商談が活発化している札幌支店については次期より「札幌統括支店」として1課、2課を配置し、よいスピード感を備えた営業活動を目指します。

株様とお取引先様からの信頼と期待に応えられる様に、営業部一同で精一杯の努力を継続してまいります。

東北営業部



15.1%

2021年4月に秋田支店が開設され、東北営業部は仙台、青森、盛岡、郡山、山形、秋田と東北六県全てに拠点が出揃いました。2021年度もコロナ禍が収束する事なく、東北でも緊急事態宣言が発令され営業活動の自粛等、引き続き厳しい状況下となりました。しかしながら営業成績において受注高は目標対比105.2%と期初に掲げた目標をクリアし、前年実績対比も115.6%と上回り、過去10年と比較しても非常に良い実績を残す事が出来ました。地域に根差した営業活動が成績に繋がったものと考えます。

2022年度においても不確実な状況ではありますが地域密着営業を一層強化しお取引先様との信頼関係を築いていきます。主力であります建設機械、車両の扱いを増やし、サービス業・商業施設関連分野での強化も図っていきます。2022年度も社業発展のため営業部一丸となって、お取引先様及び株様のご期待に応えられるよう努力してまいります。

東京支社



22.8%

第50期における東京支社は、東京、大宮、横浜、千葉、水戸、宇都宮、高崎の関東地区一都六県7支店にて営業活動を展開しました。いまだ収束しない新型コロナウイルスの影響に加え、半導体供給不足による新車トラック納期遅れなどのマイナス要素がある中で、受注高はほぼ計画通りの102.9%、収益額は好調に推移し120.8%という実績を計上することができました。第51期に向けて、中期経営計画の基本方針でもある「地域性」「専門性」「人間性」を改めて前面に掲げた営業活動を展開してまいります。支店網を生かした地域密着の地元に愛される存在であること、そして輸送用機器、建設機械における熟練した知識を生かした他社にはない専門性を堅持すること、温かみある社員が丁寧な仕事をする組織であり続けること、これらを常に意識し、掲げた目標と理想の実現のために第51期という新たな半世紀、明日に向かって歩み出します。

医療関連営業部



11.2%

医療関連営業部は札幌、仙台、東京に拠点を置き、北海道・東北・関東エリアで営業を展開しております。医療関連業界におきましては2年に渡る新型コロナウイルス対応に苦慮しつつも2021年度につきましては受注高では前年対比116.2%、収益面では前年対比117.1%という結果で終える事が出来ました。大口案件もあった北海道エリア、每期安定して伸長する関東エリアがけん引者となつた実績ですが、東北エリアについてもまだまだ扱いは少ないながら受注高では前年比118.7%と次期に期待の持てる結果となりました。

2022年度においても医療業界では感染拡大の防止等、引き続き慎重な対応を求められる1年が予想されます。我々医療関連営業部は医療の最前線に従事するお客様に対し、畏敬の念と十分な配慮を以て今年一年の営業活動を行ってまいります。そして2022年度も社業の永続的な発展に貢献し、株様のご期待に応えるべく一層努力してまいります。

■ サービス事業・商業施設関連営業部



10.9%

サービス事業・商業施設関連営業部は、サービス業全般を担当しており、小売流通業やIT業界、フリーニング業、外飲食業、宿泊施設やレジャー施設など様々な業種に携わっております。

当期は新型コロナウイルスの収束も見えず営業自粛も強いられた環境下ではございましたが、前期に比べ受注高119.7%、収益166.6%と十分な成果を上げることができました。

また、店舗向けショーケースや法人向けハード・ソフトウェア、レストランの厨房機器やカフェの店舗設備、ホテル向け精算機やゴルフ場のゴルフカート、法人向け営業車両やパチンコホールの遊技台など多岐にわたるお客様の設備投資にご協力させていただきました。次期におきましても、より一層お客様のニーズに応えられるよう事業に励むとともに株主様とお取引先様のご期待にも応えられるよう努力してまいります。

■ スペースシステム事業部



7.3%

スペースシステム事業部は、地域に密着した商業施設の開発を行う商業施設デベロッパー部門です。

当期におきましては、所沢既存施設の隣地に家電量販店、相模原にスポーツ用品店、開発中の足利施設に飲食店、衣料品、歯科クリニックを誘致、北海道では札幌に動物病院、滝川にフィットネスジム、苫小牧に斎場などを受注し、2022年に順次オープンの予定です。

完成物件については、帯広・札幌内の老健施設2施設を取得致しました。また、契約満了を迎えた8施設14テナントとは、全て更新契約を結んでおります。

当期末時点の総資産額は169億1,221万円です。スーパーマーケット、ホームセンター、ドラッグストアを中心に全国73拠点・延べ220テナントに建物賃貸し、賃貸可能面積のうち99.5%が稼働しております。次期も、商業施設の新規開発や完成物件の取得により、良質の賃貸資産を増やし、また既存施設のリノベーションや効率的な管理手法を実践しながら、保有資産のバリューアップを図ります。

土地をお貸しいただいている地権者様や建物をお借りいただいているテナント様との更なる信頼関係の構築に励み、株主様のご期待に応えるよう今後も努力して参ります。

■ 環境事業営業部

環境事業営業部は、エネルギー消費並びに二酸化炭素排出量削減に重点を置き、北海道及び東北地区にてリース契約・ESCO契約（エネルギーサービス契約）を中心に営業活動を行っております。

当期におきましては、自治体が所有する街路灯LED化を推進し管理物件数を増やすことが出来ました。また、「2050年カーボンニュートラル」に向けて多くの地方公共団体が検討している“マイクログリッド事業（再生可能エネルギーの地産地消）”実現の為に、具体的な提案業務を行ってまいりました。

二酸化炭素排出量削減には、イノベーションとファイナンスが必要になると言われております。次期におきましてもファイナンス機能を活かしつつ、地域の安心安全と二酸化炭素排出量削減に貢献する事に重点を置き、営業部一丸となって業務に邁進していく所存でございます。

■ ヘルスケアサポート事業部

ヘルスケアサポート事業部は医療福祉分野にて医療機器・医療消耗品販売、給食・清掃等施設管理業務、病院経営コンサルなど医療施設の運営関連事業を営んでおります、当社の100%出資子会社であるメッドネクスト株式会社を窓口とし連携して事業部の運営をおこなっております。2021年度の事業概況は前年同様新型コロナウイルスの影響で新規の取引が予定通り進まなかったことにより、ヘルスケアサポート事業部としては苦戦する状況にありましたが既存事業はおおむね順調であり、メッドネクストの2021年12月期の業績は売上額が979,660千円で前年対比107.3%の増収、経常利益額11,983千円で前年対比160.4%の増益を確保することができました。2022年度も新型コロナウイルスの影響は続くと思われませんが、この2年間コロナ禍で経験した事を活かし職員一丸となって戦っていきたくと考えております。苦境のヘルスケア業界で経営目標の達成を目指し中道リースの業績に貢献し、株主様のご期待にお応えできるように努力してまいります。

■ バス事業営業部

バス事業営業部は、主要リース会社では唯一存在するバス業界の専門部署です。現在、西日本全域を営業エリアとし、大阪、福岡等主要都市を中心に107社のバス事業者様との継続取引がございます。近年、業界では事業者の安全対策の推進や急増したインバウンドの受け入れ体制を整備する等充実した動きが見受けられます。しかしながら2020年当初に発生した新型コロナウイルスの影響により、約2年に渡り多くのバス事業者が、厳しい環境下での運営を余儀なくされております。そのような状況で開催された東京オリンピックでは当社の数多くのお客様のバスが運行され、又、緊急事態宣言解除後は、全国で多くの学校行事が再開し、バス業界は久しぶりに活況を呈し、明るい兆しが見え隠れした1年でもありました。新年度を迎え、再び全国でバスが稼働するその時まで、お客様との信頼関係を損なうことの無いよう営業部一丸となって努力してまいります。

貸借対照表 (2021年12月31日現在)

(単位：千円)

科 目	当 期	前 期
資産の部		
流動資産	110,394,519	104,339,202
固定資産	25,967,279	20,518,852
有形固定資産	17,940,433	14,179,827
無形固定資産	68,106	79,604
投資その他の資産	7,958,741	6,259,421
繰延資産	87,055	52,299
資産合計	136,448,853	124,910,353
負債の部		
流動負債	46,647,168	46,216,397
固定負債	80,997,984	70,339,224
負債合計	127,645,153	116,555,620
純資産の部		
株主資本	8,673,540	8,232,090
評価・換算差額等	130,161	122,642
純資産合計	8,803,701	8,354,732
負債・純資産合計	136,448,853	124,910,353

POINT

流動資産は前期に比べ6,055百万円増加し、110,395百万円となりました。これは主にリース投資資産が5,050百万円、割賦債権が2,391百万円増加し、現金及び預金が1,652百万円減少したことによるものです。固定資産は前期に比べ5,448百万円増加し、25,967百万円となりました。これは主に賃貸資産が3,760百万円、投資有価証券が1,383百万円増加したことによるものです。この結果、資産合計は前期に比べて11,539百万円増加し、136,449百万円となりました。

POINT

流動負債は前期に比べ431百万円増加し、46,647百万円となりました。これは主に一年内返済予定の長期借入金金が2,257百万円、短期借入金金が1,900百万円増加し、一年内償還予定の社債が2,420百万円、支払手形及び買掛金が911百万円減少したことによるものです。固定負債は前期に比べ10,659百万円増加し、80,998百万円となりました。これは主に長期借入金金が5,400百万円、社債が3,089百万円、債券流動化に伴う長期支払債務が1,922百万円増加したことによるものです。この結果、負債合計は前期に比べて11,090百万円増加し、127,645百万円となりました。

POINT

純資産合計は前期に比べ449百万円増加し、8,804百万円となりました。これは主にその他利益剰余金が増加したことによるものです。

損益計算書 (2021年1月1日から2021年12月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
売上高	39,293,481	40,302,110
売上原価	35,980,695	36,925,051
売上総利益	3,312,786	3,377,059
販売費及び一般管理費	2,643,468	2,689,516
営業利益	669,318	687,543
営業外収益	124,516	81,989
営業外費用	32,061	29,675
経常利益	761,773	739,857
特別利益	—	11,416
特別損失	13,133	10,807
税引前当期純利益	748,639	740,466
法人税等合計	256,819	263,597
当期純利益	491,820	476,869

POINT

当期の売上高は、前期実行した債権の証券化により資産の一部を譲渡したためリース売上高及び割賦売上高が減少し39,293百万円(対前期1,009百万円減少)、新型コロナウイルス感染症の影響による貸倒引当金繰入額は減少しましたが、売上高が減少したこと等により、営業利益は669百万円(対前期18百万円減少)、匿名組合投資利益が増加したため経常利益は762百万円(対前期22百万円増加)、当期純利益は492百万円(対前期15百万円増加)となりました。

POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益が749百万円となり、賃貸資産減価償却費990百万円、預り敷金及び保証金の増加額492百万円、貸倒引当金の増加額281百万円等の増加に対し、リース債権及びリース投資資産の増加額6,258百万円、賃貸資産取得による支出4,456百万円、割賦債権の増加額2,421百万円等の減少により12,403百万円の減少(前事業年度は3,348百万円の減少)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の償還による収入209百万円、匿名組合出資金の払戻による収入150百万円等の増加に対し、投資有価証券の取得による支出1,729百万円等の減少により1,391百万円の減少(前事業年度は1,165百万円の減少)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の差引増加額7,767百万円、社債の発行による収入4,922百万円、債権流動化による収入2,940百万円、短期借入金の増加額1,900百万円等の増加に対し、社債の償還による支出4,320百万円、債権流動化の返済による支出1,015百万円等の減少により12,141百万円の増加(前事業年度は1,962百万円の増加)となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要旨) (2021年1月1日から2021年12月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△12,402,935	△3,347,580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,390,905	△1,164,979
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,141,417	1,962,313
現金及び現金同等物の増減額	△1,652,423	△2,550,245
現金及び現金同等物期首残高	8,579,865	11,130,110
現金及び現金同等物期末残高	6,927,441	8,579,865

室蘭市・胎内市・足利市・豊橋市で新規商業施設を開発 帯広市・幕別町で有料老人ホーム2棟を取得

スペースシステム事業部は、北海道室蘭市のMORUE中島SCの3期計画として西松屋・焼肉徳寿・KFC・魚べいを、新潟県胎内市でスーパーマーケットのウオロクをキーテナントとした複合施設内にセリアを、栃木県足利市の公設市場跡地でフレッセイ・ダイソー・セカンドストリート・セイムス・自転車あさひ・コナカ・歯科・餃子の王将・VITO・ネイルサロン・美容室・スターバックスコーヒー・眼鏡市場・カーブス・コインランドリー・クリーニングを、愛知県豊橋市でスターバックスコーヒーをそれぞれ新規開発いたしました。新潟県、栃木県、愛知県は当社初出店となります。また、帯広市と幕別町に有料老人ホーム2棟を取得いたしました。今後も新規物件の開発及び優良物件の取得を進めてまいります。



室蘭市 MORUE中島SC 3期



胎内市 中条ショッピングセンター



足利市 福居町複合施設



豊橋市 スターバックスコーヒー豊橋柱店



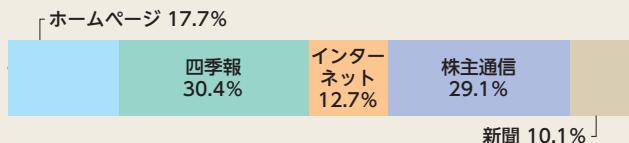
帯広市 ノーステラス緑ヶ丘

第49期アンケートのご報告

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

第49期株主通信にて実施しました株主のみなさまを対象とした「アンケート」の集計結果の主なデータをご報告いたします。多くのみなさまのご協力を賜りましたことをあらためて感謝申し上げます。

1 当社に関する情報入手手段は何ですか。



2 当社の今後に期待するものをお選びください。



3 投資方針の決定に際して重要視するものは何ですか。



4 今後の当社株式に関するお考えをお選びください。



1	・株主数を増やす対策を講じてほしいです	北海道外 会社員 30代男性
2	・配当をもっとあげてください。低すぎます!	北海道 無職 70代以上男性
3	・QUOカードは、他社の株主優待でもらえるので、図書カードを継続して欲しい。	北海道外 会社員 40代男性
4	・毎年ありがとうございます。図書カード、心づかいいただきありがとうございます。ありがとうございます。新型コロナウイルスで大変かと思いますが、社員を守りながら会社運営よろしく願います。	北海道外 公務員 50代男性
5	・がんばってください。	不明 主婦 70代以上女性
6	・図書カードを使用期限がなく使い勝手も良いQUOカードに変更してほしい。	北海道外 会社員 50代男性
7	・コロナで不透明な状態が続いていますがいつか必ず終息することを信じて頑張ってください。特に営業の皆さん大変でしょうが	北海道外 無職 70代以上男性
8	・中国が進出していますから、注意して下さい。	北海道外 無職 70代以上不明
9	・配当が長年少なすぎる。内部留保は充分と思われるので、せめて配当性向を36%以上とし、20年後であれば1株当たり20円とすべき。	北海道外 無職 70代以上男性
10	・自己株式の購入をご検討下さい。東北地方での知名度向上に尽力下さい。	北海道外 会社員 40代男性
11	・特になしー	北海道外 団体職員 50代男性
12	・利益率をもう少し上げていただきたい	北海道外 自営業 70代以上男性
13	・東証上場を希待します	北海道外 無職 不明女性
14	・アンケートの結果、どういった施策を行ったのか、掲載してもらいたい	北海道外 自営業 50代男性
15	・配当金をゆうちょで受け取れるようにして下さい!	北海道外 自営業 30代男性
16	・がんばって下さい。	北海道 法人 70代以上男性
17	・株価対策で中間配当実施	北海道外 会社員 40代男性
18	・株価対策を期待。	北海道外 無職 70代以上不明
19	・堅実性が強すぎて成長性が少し足りない気がする。株価も安定しすぎているのでは。	北海道外 無職 50代男性

株主のみなさまからいただきました貴重なご意見・ご提言を真摯に受け止め、企業価値の向上及びIR活動の拡充に努めてまいりますので、今後とも更なるご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会社の概況 (2021年12月31日現在)

会社名 (英文)	中道リース株式会社 Nakamichi Leasing Co., Ltd.
本社	札幌市中央区北1条東3丁目3番地
設立年月日	1972年4月21日
主要な 事業内容	・各種物件のリース及び延払販売ならびに融資 ・不動産の売買、賃貸借ならびに仲介斡旋
従業員	168名
資本金	2,297.4百万円

取締役及び監査役 (2022年3月17日現在)

代表取締役会長	関	寛
代表取締役社長	関	崇博
常務取締役	西中	秀之
取締役	石井	晃司
取締役	遠藤	龍二
取締役	藤松	範光
取締役(社外)	中田	美知子
常勤監査役	池原	和男
常勤監査役	高橋	正幸
監査役	村木	靖雄
監査役	長野	実

株式の概況 (2021年12月31日現在)

発行可能株式総数	27,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式1,262,599株を除く)	7,417,201株
株主数	556名

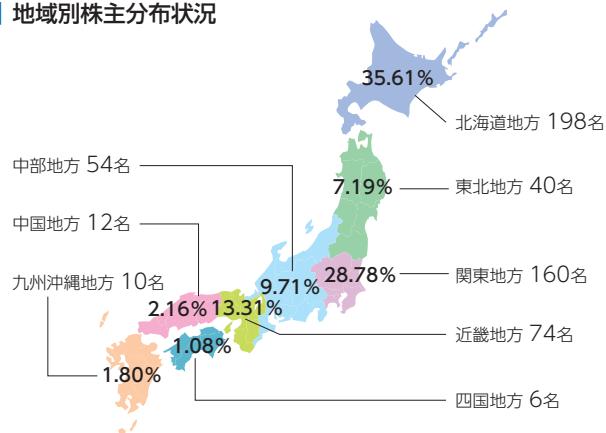
大株主

株主名	持株数	持株比率
関 寛	1,471,400株	16.95%
芙蓉総合リース株式会社	831,000	9.57
ノースパシフィック株式会社	823,000	9.48
株式会社北洋銀行	410,728	4.73
株式会社日本カストディ銀行 (信託口4)	293,000	3.38
関 崇博	290,500	3.35
株式会社北海道銀行	290,000	3.34
三井住友海上火災保険株式会社	253,000	2.91
北海道信用金庫	135,000	1.56
株式会社リアライズコーポレーション	100,600	1.16

所有者別株式分布状況



地域別株主分布状況



■ 本社	〒060-8539	札幌市中央区北1条東3丁目3番地 札幌スクエアセンタービル6階 TEL(011)280-2266・FAX(011)280-2727
■ 営業部	〒060-8539	札幌市中央区北1条東3丁目3番地 札幌スクエアセンタービル5階 TEL(011)280-2171・FAX(011)280-2002
■ 札幌支店	〒060-8539	札幌市中央区北1条東3丁目3番地 札幌スクエアセンタービル5階 TEL(011)280-2171・FAX(011)280-2002
■ 旭川支店	〒070-0031	旭川市1条通9丁目50番地3 旭川緑橋通第一生命ビル5階 TEL(0166)25-5301・FAX(0166)25-5325
■ 帯広支店	〒080-0010	帯広市大通南10丁目8番地 帯広フコク生命ビル6階 TEL(0155)25-2030・FAX(0155)25-2028
■ 函館支店	〒040-0011	函館市本町7番18号 函館道銀ビル7階 TEL(0138)56-1040・FAX(0138)56-5020
■ 苫小牧支店	〒053-0022	苫小牧市表町5丁目4番7号 苫小牧海晃第一ビルディング2階 TEL(0144)32-1654・FAX(0144)33-3185
■ 釧路支店	〒085-0015	釧路市北大通11丁目1番地2 日進釧路ビル5階 TEL(0154)31-8800・FAX(0154)25-2234
■ 東京支社	〒105-0013	東京都港区浜松町1丁目27番14号 サン・キツカワビル3階 TEL(03)3459-0911・FAX(03)3459-0916
■ 大宮支店	〒330-0803	さいたま市大宮区高鼻町1丁目31番地1 TOPS大宮ビル5階 TEL(048)641-9933・FAX(048)641-9922
■ 横浜支店	〒220-0022	横浜市西区花咲町7丁目150番地 ウェインズ&イッセイ横浜ビル10階 TEL(045)410-2235・FAX(045)410-2236
■ 千葉支店	〒260-0013	千葉市中央区中央3丁目3番1号 フジモト第一生命ビルディング9階 TEL(043)225-6366・FAX(043)225-6331
■ 水戸支店	〒310-0026	水戸市泉町1丁目2番4号 水戸泉町第一生命ビルディング8階 TEL(029)303-2055・FAX(029)233-2566
■ 宇都宮支店	〒320-0811	宇都宮市大通り2丁目3番1号 井門宇都宮ビル7階 TEL(028)614-3655・FAX(028)633-6262
■ 高崎支店	〒370-0828	高崎市宮元町21番地 高崎宮元町ビル9階 TEL(027)395-4811・FAX(027)395-0678
■ 仙台支店	〒980-0014	仙台市青葉区本町2丁目3番10号 仙台本町ビル6階 TEL(022)266-2741・FAX(022)266-1575
■ 青森支店	〒030-0802	青森市本町1丁目2番15号 青森本町第一生命ビルディング6階 TEL(017)723-4431・FAX(017)723-4427
■ 秋田支店	〒010-0001	秋田市中通2丁目5番21号 秋田東京海上日動ビル7階 TEL(018)827-5315・FAX(018)827-6783
■ 盛岡支店	〒020-0021	盛岡市中央通3丁目1番2号 盛岡第一生命ビル9階 TEL(019)623-4841・FAX(019)623-4833
■ 郡山支店	〒963-8014	郡山市虎丸町21番10号 EME郡山ビル7階 TEL(024)935-6890・FAX(024)935-6892
■ 山形支店	〒990-0039	山形市香澄町2丁目2番31号 カーニープレイス山形4階 TEL(023)633-3310・FAX(023)633-3800

経営の理念

『わが社は事業を通じ、社会の発展に貢献する。』

1. 業績を高め、株主の期待に応える。
2. 従業員の生活向上と働きがいある企業づくりをめざす。
3. 取引先との共存共栄をはかり、社会との連帯を深める。

基本方針

わが社は『経営の理念』のもと、緑豊かな地球を次世代に引き継ぐため、リース事業を幹とした金融サービスを通じ、適切な品質提供と環境保全に取り組みます。

この方針は、全従業員への周知徹底とともに、法令及び当社が同意するその他の要求事項の順守を根に適切性維持のため見直し、継続的に改善します。

品質方針

- ◎ 地域営業基盤を強化するとともに顧客サービスの継続的改善をめざします。
- * 顧客ニーズへの適切な対応
- * 迅速な顧客対応
- ◎ 営業資産の健全化と与信管理の充実をはかります。

環境方針

- ◎ 天然資源の枯渇防止を目的とし、循環型社会の形成に寄与します。
- * 省資源・省エネルギー・再資源化の推進
- * 環境汚染予防の推進



ISO9001認証取得
ISO14001認証取得

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
配当金のお支払い	期末配当金は毎年12月31日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者にお支払いいたします。
基準日	毎年12月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して、基準日を定めます。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号

	証券会社に 口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社に なります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意		未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。 単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

上場証券取引所 札幌証券取引所

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、北海道新聞および日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載ホームページアドレス
<https://www.nakamichi-leasing.co.jp/>

WEBサイトのご案内

中道リース

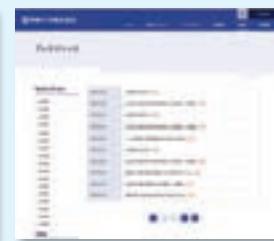
検索



<https://www.nakamichi-leasing.co.jp/>



「リースについて」には、リースの仕組み、リース対象物件等を公開しております。



「IR情報」ではプレスリリース、決算短信、業績状況、株主通信のバックナンバー等を公開しております。



元気からはじめます。

中道リース株式会社



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。



この冊子は「再生紙」と
環境に配慮した「植物油
インキ」を使用しており
ます。